

虹の丘小



これがイチオシ

備えや訓練 月1回確認

虹の丘小には、月に1回「ぼうさいタイム」という時間があります。朝の時間に全クラスで、避難の仕方を考えたり確認したりする時間です。家でできる備えなどの勉強もしています。

地震や不審者などに備える避難訓練で「全校が静かに行動できたね」と校長先生がほめてくださいました。それはこのぼうさいタイムで、事前に避難を学習しているからだと思います。

月に1回ですが、いざというときに生かせるように各クラスで学んでいきたいです。

学校名 仙台市立虹の丘小学校
所在地 仙台市泉区虹の丘1の10の1
創立 1986年
電話 022(372)5283
校長 熊谷 敬子
児童数 286人

「避難 いつどこへ」考える

地域の人々と防災学習

虹の丘小の5年生は総合的な学習の時間で災害を学んでいます。これまで地震や津波、大雨を学び、自分たちにできることがあると知りました。6月の仙台市震災遺構荒浜小の見学では、被害の大きさや荒浜地区の以前の様子を学びました。特に、当時の住民はメッセージ映像で「最初は普通の地震だと思っていた」と語り、地震の恐ろしさを感じました。7月はマイタイムラインを作成しました。仙台市防災・減災アドバイザー早坂政人さんから、今



練習用の防災ハザードマップを見ながら避難の仕方考える児童たち

わが校わがまち スクール通信



次回は
飯野川小（石巻市）
西住小（柴田町）

受け継がれる二つの宝物

太鼓と「メリーちゃん」

上沼小の宝物を二つ紹介します。上沼舞太鼓は20年前の統合を機に創作され、代々受け継がれています。太鼓と舞いに分かれて練習し、運動会や上沼舞太鼓引継ぎ式で披露します。舞いは扇子とお幣束を持ち、輪になって踊ります。太鼓は小太鼓、中太鼓、大太鼓の3種類があり、リズムに合わせてたたきます。特に大太鼓は鳥舞太鼓全体を仕切る重要な役目です。11月にある引継ぎ式に向けて練習が始まるので、6年生から下級生に伝統のバトン



①地域の方の指導を受けながら舞いの練習をする児童②下級生に太鼓の手法を見せる5・6年生③6年生から5年生に伝統のバトンをつないだ引継ぎ式④青い目の人形「メリーちゃん」

上沼小



これがイチオシ

生産者の苦勞 育て知る

上沼小では、地元の特産品のキュウリ、リンゴの他に、スイカ、メロン、ミニトマト、シソなどを校庭の畑で育てています。栽培農家の方に育て方を教えてもらいます。とてもみずみずしくておいしいです。毎朝水やりをしています。キュウリが苦手な人も食べられるようになります。

リンゴは、「ふじ」と「はるか」という品種を育てています。受粉作業や水かけ、草取り、色を良くするために実を回して日を当てる玉回しなどのいろいろな作業をしながら、約1年かけて育てます。体験を通して生育の過程がよく分かり、生産者の苦勞を知ることができます。

学校名 登米市立上沼小学校
所在地 登米市中田町上沼弥勒寺大下91の2
創立 2005年
電話 0220(34)2339
校長名 高橋 広満
児童数 109人

竹を使い 食器作り

疑似体験「防災キャンプ」



大河原南小大河原南小（児童231人）で、児童が避難所生活を疑似体験する「防災キャンプ」があった。大規模災害発生時に周囲の人と協力して生き抜く共助の大切さを学んでもらおうと、有志の保護者らでつくる「オヤジの会」が企画した。6日のキャンプには、6年生25人が参加。ホールでは、避難所でプライバシーを確保するためのワンタッチテントについて学んだ。3、4人一組になり、実際にテントを組み立てたり、片付けたりした。

避難所体験では、竹をのこぎりで切って食器を作った。あらかじめ切りそろえた竹と一緒にやすりがけして夕食用の食器を準備した。夕食は、ピザトーストと即席麺を作って食べた。

（9月9日朝刊より）



竹を切って食器作りに挑戦する児童

大河原南小6年生25人

「スチューデントシティ」は、仙台市内の小学5、6年生がお仕事をして給料をもらい、買い物や納税をする「小さな街」です。河北新報社は、新聞づくりなどの仕事を体験する支局を開設しています。



虹の丘小6年、東四郎丸小6年（9月10日）



岩切小5年（9月11日）

河北新報の仕事 がんばった

仙台市スチューデントシティ支局員紹介



新田小6年、松森小6年（9月4日）



鶴谷東小6年、長命ヶ丘6年（9月9日）